

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年6月20日現在

機関番号：37118

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2018

課題番号：17K13370

研究課題名(和文)戦後岩手における農村演劇の調査研究 - 劇団ぶどう座関連資料の収集整理

研究課題名(英文) Research and Study of Rural Theatre in Postwar Iwate Prefecture : Consolidation of Documents related Budoza Theatre Company

研究代表者

須川 渡 (SUGAWA, Wataru)

福岡女学院大学・人文学部・講師

研究者番号：50709566

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、第二次世界大戦後の岩手県の農村演劇の実態を、作品分析の側面から調査研究することを主眼とした。特にこの研究では、岩手県湯田町(現西和賀町)を拠点とする劇団ぶどう座の活動に焦点をあてた。2016年にぶどう座劇団員の遺族から提供のあった史料の収集整理を中心に行い、研究期間中に530点の図書目録化の作業が終了した。

また、戦後湯田における演劇文化の実態を知るため、1949年まで湯田に存在した芝居小屋・川尻座についての聞き取りを地元住民から行った。そのうえで、同時代の都市圏の演劇実践と比較し、湯田における演劇実践が全国的に展開したサークル文化運動の影響を受けていることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

2年間の研究期間において収集・整理した劇団ぶどう座の史料は演劇関係の図書雑誌に加え、農村運動や婦人運動、岩手県の郷土資料等も含んでいる。これら史料は演劇のみならず、広く当時の社会運動や文化運動を知る上で重要な価値を持っている。

また、銀河ホール創設以降のぶどう座に関する調査は、近年の地域演劇やアマチュア演劇について考える上で重要な意味を持つ。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to investigate the actual status of rural theatre in Iwate Prefecture following the WW from the aspect of analysis of works. Especially in this study, it focused on the activities of Budoza Theatre Company, based in Yuda Town (currently Nishiwaga Town), Iwate Prefecture. Consolidation of historical documents provided by the bereaved family member of the Budoza member was received in 2016, and the work on creation of a 530-item catalog was completed during the study period.

In addition, in order to understand the actual status of the postwar theatre culture in Yuda, the researcher interviewed local residents concerning the Kawashiri-za theatre that existed in Yuda until 1949. In addition, it compared with the theatre practices of urban areas during the same period and demonstrated that the theatre practices in Yuda were influenced by the circle movements that developed across Japan.

研究分野：演劇学

キーワード：舞台芸術 農村演劇 サークル文化運動 芸術諸学 社会学

1. 研究開始当初の背景

本研究は第二次世界大戦後の岩手県の農村演劇の実態を、作品分析の側面から調査・研究することを主眼としている。日本の演劇研究において、都市圏以外の演劇はこれまであまり取り上げられてこなかった。その一つには、資料が散逸しており、包括的な検討が非常に困難であることが考えられる。従来の方の演劇の紹介は、例えば県民の郷土誌のように、各地域における演劇活動の紹介にとどまることが多かった。

各地域の演劇は独立して存在したのではなく、互いに影響を及ぼし合ったと捉えるのが自然である。本研究は、地域の演劇を個別の事象として捉えるのではなく、関係者の観劇体験やコンクールなどの普及活動、全国的に展開した出版文化を考慮することで、個別の地域に捉われないコミュニティの演劇史を構築することを目標とする。

本研究は、戦後岩手の農村演劇に関する一次資料やフィールドワークをもとに劇作品の分析をすることで、これまで等閑に付されてきた日本の戦後演劇史の側面の一つを明らかにする。

2. 研究の目的

この研究課題には大きく次の三つの問題意識がある。

(1) 日本戦後演劇史への新たな視点

まず、従来の日本の演劇史研究が重要視してこなかった都市圏以外の演劇、とりわけ岩手県で行われた農村演劇に着目し、これまでの戦後演劇史に新しい視点を投げかけることである。戦後、素人による演劇活動は全国各地の農村・職場・学校で盛んに行われるようになった。もっとも、これまでの研究では、その対象は同時代に流行した新劇の周縁的な位置づけとして捉えられることが多かった。だが、農村演劇運動は、木下順二・竹内敏晴ら演劇人たちが盛んに普及活動を進めたことから、戦後演劇史にとって見逃してはならない重要な事象だった。本研究においては、劇団の活動をとりあげるだけでなく、岩手県で形成された演劇のネットワークと近代劇創作の諸関係に注目することによって、従来の日本の戦後演劇史に修正を加えることを目的とする。

(2) 作品分析からみる岩手県の演劇史

次に、岩手県の演劇史を「作品分析」という側面から構築することである。第二次世界大戦後、川村光夫・秋浜悟史といった岩手県出身の劇作家は、盛んに故郷である「岩手」を劇作品の重要なモチーフに据えた。しかし、東京を拠点としない劇団の作品の多くは網羅的に紹介されるだけであり、具体的な作品分析が十分に行き届いているとはいえない。地域の劇作家は、全国的に普及した戦後新劇と地域性との間に生じる葛藤をどのように克服したのか、また観客はどのようにそれらを評価し、問題視したのか。こうした問いに答えることで、演劇活動の紹介のみにとどまる傾向にあった地域の演劇史に修正を加えることを目的とする。

(3) 岩手県と他地域の相互関係性

最後に、岩手県とそれ以外の地域の相互関係性を議論することである。従来の地域演劇の紹介は、例えば県民の郷土誌のように、各地域における演劇活動の紹介にとどまることが多かった。これは、書き手の多くが、実際に地域の演劇実践に関わっており、その資料の多くが自伝や評伝としての性質を持つからである。だが、それぞれの地域は独立して存在するのではなく、互いに影響を及ぼしあったととらえるのが自然のように思われる。個別の事象として地域を捉えるのではなく、創作者の観劇体験やコンクールなどの普及活動、全国に展開した出版文化を考慮することで、個別の地域にとらわれない新しい戦後演劇史観を構築することを目的とする。

調査者はこれまで一貫して戦後日本の地域演劇、とりわけ岩手県に関連する劇作品の調査・分析を中心に据えて研究を行ってきた。本研究は、これまで継続して調査してきた岩手県西和賀町を起点としたうえで、さらに岩手県下の劇団の諸活動、および同時代の都市圏の演劇との比較研究に視野を広げる。

3．研究の方法

まず、劇団ぶどう座の上演台本、1947年から1965年までのサークル日誌、書簡などの一次資料を調査した。これらのうち、今回は劇団ぶどう座が所蔵する、創設期1950年代から60年代前半の未収集の資料に焦点をあてた。

それと並行して、ぶどう座劇団員・越後谷栄二の遺族から提供のあった写真・書簡の整理を行った。特に写真については、1950年前後の劇団ぶどう座公演を中心とした青年運動に参加、観劇した地域住民と協力し、その詳細を把握した。古書として入手できない雑誌や単行本、岩手の地方新聞については国立国会図書館で閲覧した。

次に、作品の分析を行った。上演戯曲と照らし合わせながら、収集した舞台写真、サークル日誌、書簡、劇評、地域住民の証言などを分析し、上演の様相を明らかにした。活動初期のガリ版刷りの作品については、活字化した。基本的には、一次資料の収集と上演の再構築を継続して行うが、岩手県における劇団の活動を戦後演劇史の中に位置づけるとともに、従来の戦後演劇史に新しい視点を提供することを中心に据えた。

4．研究成果

研究期間における史料収集・整理により、530点の図書目録化の作業が終了した。史料は演劇関係の図書雑誌に加え、農村運動や婦人運動、岩手県の郷土資料なども含んでいる。劇団ぶどう座の未刊行作品である川村光夫の『町長選挙』『どぶろく農民の墓』については活字化し、再活用しやすい状態にした。これらの史料整理により、1950年代から60年代の文化運動のあり方の中で、ぶどう座の活動を俯瞰できる可能性が高まった。目録化された資料については、劇団員と十分にコンタクトをとったうえで研究期間終了後に公表する予定である。

また、1949年まで湯田町に存在していた芝居小屋・川尻座についての聞き取り調査をした。2017年5月に地域住民4名にヒアリングを行い、川尻座および1950年前後の西和賀について話を伺った。同月、国立国会図書館にて地元の新聞『西和賀新報』の調査を行い、ぶどう座創設以前の湯田における演劇運動の実態を明らかにした。

研究の成果は主に研究発表2件とレクチャー1件を通して発表した。まず、大阪大学で開催された近現代演劇研究会において、「サークル文化運動としての演劇実践 劇団ぶどう座の新史料を手がかりに」を発表した。本発表は、1950年代から60年代のぶどう座の活動を再検討し、『嵐と沼』（1960）および『町長選挙』（1960）の2作品の分析を行った。また、国立韓国藝術総合学校で開催された国際シンポジウムにおいて、The Future of Japanese Regional Theatre - The Cultural Movement of the Budoza Theatre Companyを発表した。本発表では、2003年以降の劇団ぶどう座の活動を検討した。また、西和賀町立銀河ホールで開催された第25回銀河ホール地域演劇祭においてレクチャーを行い、地域住民との交流も含め、より広く成果を発表することができた。

2018年11月には演出家・立教大学講師の羽鳥嘉郎氏を福岡女学院大学に招き、羽鳥氏編集による『集まると使える-80年代運動の中の演劇と演劇の中の運動』の中の、特にぶどう座を扱った点について話をうかがった。ぶどう座は近年「演劇」と「運動」の関わりを考える上でも注目されており、ぶどう座の今日的な意義について有益な見解を得ることができた。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計1件)

Wataru SUGAWA, The Future of Japanese Regional Theatre - The Cultural Movement of the Budoza Theatre Company, The 5th International Asian Theatre Studies Conference In/Out of Asia, 査読無, 2017, pp.138-145,

〔学会発表〕(計3件)

須川 渡、「サークル」って何だ? 劇団ぶどう座の文化運動、第25回西和賀町立銀河ホール地域演劇祭、2017

須川 渡、サークル文化運動としての演劇実践 劇団ぶどう座の新史料を手がかりに、近現代演劇研究会、2017

Wataru SUGAWA, The Future of Japanese Regional Theatre - The Cultural Movement of the Budoza Theatre Company, The 5th International Asian Theatre Studies Conference In/Out of Asia, 2017

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名:

ローマ字氏名：
所属研究機関名：
部局名：
職名：
研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者
研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。